

社会の「いきいき」のために

TaKaRaハーモニストファンド

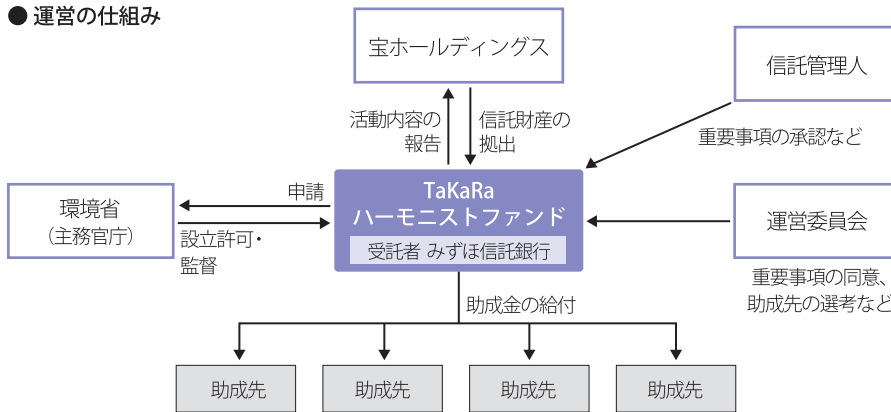
自然環境保全や生物多様性保全のための活動や研究に取り組む団体や個人を全国から公募し、広く支援し続けています。

公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」

寶酒造（現在の宝ホールディングス）は、1985年の創立60周年を機に公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。

2010年度は、イヌワシの行動圏と生息場所を調査しイヌワシの保全に必要な森林のあり方を検討するクマタカ生態研究グループや、棚田における景観整備・援農・自然環境教育活動を行うことで地域ぐるみで棚田・里山の再生に取り組むいこま棚田クラブなどに対し11件の助成を行いました。

● 運営の仕組み



● 2010年度の助成先

	助成先団体・個人	地域	テーマ
研究の部	霞ヶ浦漁業研究会	茨城県	シジミ漁業再生戦略研究
	クマタカ生態研究グループ	滋賀県	イヌワシの行動圏と生息場所利用の解明
	中西 康介(個人)	滋賀県	滋賀県の水田における水生動物群集の動態と保全に関する研究
	石谷 正宇(個人)	広島県	自然再生地における昆虫類の生物多様性保全に関する研究
活動の部	間伐ボランティア「札幌ウッドーズ」	北海道	甕れ 里山民有林再生事業
	志摩半島野生動物研究会	三重県	志摩市和具大島のアツバキミガヨラン駆除
	おにぐるみの学校	滋賀県	木の岡ビオトープの貴重な自然を活用した地域づくり
	いこま棚田クラブ	奈良県	生駒市の西畑地区の棚田・里山の再生と創造
	コウノトリ湿地ネット	兵庫県	コウノトリの採餌環境の造成と維持管理手法の研究
	NPO法人 自然再生センター	鳥取県	中海・彦名処理地の動植物相の現状調査と環境学習の場としての利活用の検討
	安田自治振興会	広島県	安田地域における絶滅危惧種ダルマガエルの保護・保全活動

H: TaKaRaハーモニストファンド



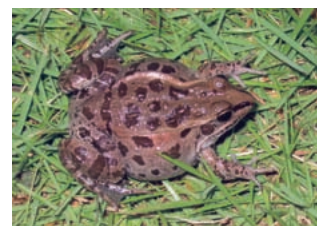
イヌワシ(中野晋氏提供)



棚田(いこま棚田クラブ提供)



コウノトリ(コウノトリ湿地ネット提供)



ダルマガエル(安田自治振興会提供)

TaKaRaハーモニストファンド25周年

TaKaRaハーモニストファンドは、2010年度で25周年を迎えました。第1回からの助成先件数は延べ271件、助成金累計額は1億3,009万9千円になりました。

自然環境保全や生物多様性保全は継続して取り組むことが大切です。これからも自然を守る活動や研究を続ける団体や個人に対する支援を続けていきます。

ここでは、2つの助成先からいただいたコメントを紹介합니다。

VOICE

木の岡ビオトープの水質浄化機能の発揮に貢献しています

「おにぐるみの学校」は琵琶湖南湖にある木の岡ビオトープで活動をしています。ビオトープ内のごみ拾いや観察広場の除草作業、倒木の処理などの保全活動



と、植物などのモニタリング調査やネイチャーゲーム、クラフト作り、ドングリの苗木の植樹、野草の天ぷらの試食などの自然体験学習に加え、冬の水鳥や秋の昆虫類などの観察会、それらの計画を策定する運営委員会が主な活動内容です。

TaKaRaハーモニストファンドに応募したのは、「日本の緑を構成する森林などの陸域、または海、湖沼、河川などの水域の自然環境に関する実践的な研究・活動に対して助成する」というファンドの目的が、私たちの活動と合致していると思ったからです。助成金は2010年度のモニタリング調査や植樹活動、イベントに役立てました。モニタリング調査では専門家にビオトープ内の植物リストを作成してもらい、これを用いて会員や地域の方々に植物の講習を実施することができました。

木の岡ビオトープは抽水植物域と湿生林域から形成された水辺のエコトーン（移行帯）としての役割を果たしており、上流から流入している生活雑排水や雨水の水質浄化機能を備えています。「おにぐるみの学校」の活動はその機能の発揮に役立っており、今後も継続的に広範な活動に取り組んでいきたいと考えています。

おにぐるみの学校
代表 小林 圭介 様



VOICE

干潟調査を主導できる若きリーダーが育ちつつあります

日本国際湿地保全連合 (Wetlands International Japan: WIJ) は沿岸域や湖沼・湿原といった「湿地」の調査・研究を行うNPO法人です。干潟は、有機物を分解する天然の水質浄化槽、魚介類



の繁殖場や生息場、渡り鳥の食事場や休憩場として、重要な役割を果たしています。WIJは、干潟の調査に取り組んでいますが、近年では調査できる人材の不足が課題です。

そこで私たちは「干潟調査ができる人を育てる」事業を立ち上げることとし、TaKaRaハーモニストファンドに、助成していただくこととなりました。人材不足は、「適切な教材の不足」と「研修を受ける機会の不足」に起因していたため、まずは教材開発に着手するとともに、「干潟生物の市民調査」を普及させる会をスタートしました。教材についてはガイドブックを作成し、研修会は福島県の松川浦、千葉県の小櫃川、和歌山県の和歌浦や有田川、熊本県の球磨川などで10回以上開催し、干潟調査を主導できる若き「調査リーダー」を育成しています。

こうした取り組みの結果、今では干潟調査をできる人材が育ち、人材不足が解消しつつあります。TaKaRaハーモニストファンドに助成していただいた事業の成果だと感謝しています。

NPO法人日本国際湿地保全連合
事務局長 佐々木 美貴 様

